

下水道管更生技術施工展 2005 宮城を訪ねて

川合 孝
KAWAI Takashi

No-Dig Today
編集企画小委員会委員



秋の景色が深まりつつある宮城塩竈で、これからのインフラ整備を支える下水道管更生技術展を編集委員として訪れることができたのでご報告したいと思います。

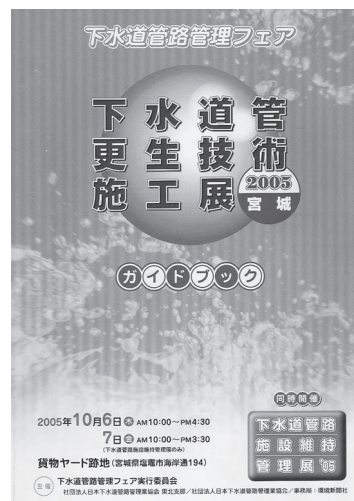
仙台にはよく来るが、塩竈まで足を伸ばす人も少ないと思うので、少しだけホームページの受売りですがコマーシャルをしたいと思います。私も工事で6年程前に仙台に4年間仕事で滞在していましたが、塩竈を訪れる機会はあまりなかったように記憶しています。新幹線を仙台駅で降り、当時工事中であった仙台駅周辺もすっかり整備され、塩竈に向かう電車も地下に移り戸惑う中、30分ほど当時の思い出に慕っているあいだに着いてしまう塩竈は、宮城県内でも有数の漁港のひとつです。「塩竈みなと祭」は、巖島神社（広島県宮島町）の管絃祭、貴船神社（神奈川県真鶴町）貴船まつりと合わせ、日本三大船祭りとして昭和23年に始まったそうです。奥州一宮塩竈神社の神輿をのせた御座船が100隻の御供船とともに、日本三景松島湾内を巡幸する勇壮な祭りとして日本全国から多くの見物客が訪れます。

千数百年の歴史を有する塩竈は、奥州一之宮・鹽竈神社に代表されるように、数々の文化を培ってきたところであり、日本三景の松島遊覧の基地としても多くの観光客を集めています。近年は、神社の門前町、港町として育んできた、日本一の生マグロやかまぼこ、和菓子、日本酒、寿司などが美味しい「食のまち・塩竈」として注目を集めています。

さて本題に戻るとして、ちなみに今回の開催地である塩竈市における下水道は、昭和22年、進駐軍の衛生将校ピーター・ハワード大尉の提言により伝染病、浸

水対策として国道45号線を中心に開始されたそうです。以来、本市の下水道は整備を重ね、いまや総延長276kmの管路が市内に構築されているようで、昭和53年仙台塩竈地区をまとめた流域下水道が処理開始されたが、同年発生した『宮城県沖地震』で塩竈市も大きく被害を受けたそうです。今後、30年以内に同規模の地震が発生する確率は99%と言われており、8月16日の地震の影響もあり、市民の関心も非常に高まっているところであり、管路の補強工法や補修点検システムの紹介をメインとするフェアの開催は時節を得たもので、仙台は地震を経験しており、老朽化以外に地震に対しての対策においても、たいへん関心の高い地域であるのだと思います。*ガイドブックより

今回の下水道管理フェアは、(社)日本下水道管路管理業協会東北支部が隔年で開催している『下水道管路施設維持管理展』と東北地域では初開催となる『下水道管更生技術施工展 2005 宮城』です。



たいへん役立ったガイドブック

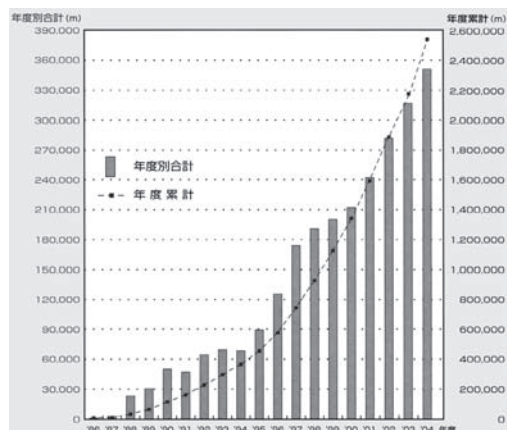
出展者は35社・団体が、2日間の日程の中、技術施工展は1日だけで、各団体が同時にデモを行っていることから、全てのデモを見るにはたいへんでしたが、各団体とも数回のデモを行なうことと、判り易いガイドブックでのスケジュールにより助けられました。管路の更生や点検技術は非開削で行われる場合が多く、今回出展している技術も大半が非開削で行われるものです。

非開削技術は、その利点から本来の見えないところから施工を行なっていることから、施工方法等についてはなかなか資料を見ただけでは実感できなかったのですが、各出展者によるデモは、地中で行なう工程を、地上で再現するための装置や、また、更生技術については、製品を作るには出来上がったものが硬化または製管する施工過程において、工法や商品の特徴が発揮できるよう展示内容を工夫していて、併せて説明を聞くことで、たいへん判りやすいものでありました。

実際の展示内容については、前出の渡邊様のレポート「下水道管更生技術施工展—2005—見て歩き」でおわかりいただけたと思います。

維持管理はこれからの施設の予防延命化に寄与できるものと考えられます。2日間の来場者数は6日1237名、(7日494名)、合計1731名で、遠方から大型バスを仕立てて参加している団体があるなど、本展がたい

管渠更生工法の実績推移 ※管渠更生工法技術協会資料



へん有意義なものであることを再認識いたしました。このことは、管渠更生工法の実績の推移をみてもわかるように、'86年当時と比較すると、わずか1kmであったのに対し、'03年には31.6万kmと大きな伸びをみせており、今後のインフラ整備の大きな市場であることが伺えます。

この技術施工展は毎年全国で行なわれているようなので、まだ、訪れていない方は、『見て・聴いて・触って』実感できる今後開催される本技術施工展に足を運んではいかがでしょうか？

最後に、同じ小委員であり管渠更生工法技術協会の岩田様には、たいへんお忙しい中、会場内を案内していただき、本誌をお借りしてお礼を申し上げます。



製管してゆく状況が良くわかります『見て』



来場者が多くの商品を見学できるように、デモは各団体とも数回行なわれた『聴いて』



ビル内など、φ40mm以上で可能な超小口径管の更生技術『触って』



部分補修においても供用中での作業性や性能を確実にするための工夫がされています